

第67回 有瀬図書館ギャラリー展



ミニ展示

意味がわかると奥深い 博物館ポスターの世界

そのイメージ戦略

2023 11.12(日) ~ 12.2(土)

📍 神戸学院大学有瀬図書館本館2階 エントランスコーナー

博物館ポスターの世界へ

皆さんは、博物館ポスターとその色彩に注目したことはありますか。本企画展では、滋賀県立琵琶湖博物館に届く膨大な量のポスターを分類し、そのイメージ戦力を読み解いていきます。

時代や対象によって左右されるポスターのイメージと色彩の関係を、私たちと一緒に考えてみてください。



歴史系テーマ「色彩が呼び起こす日本の歴史」



美術系テーマ「発見の窓」



▶ 分類の様子

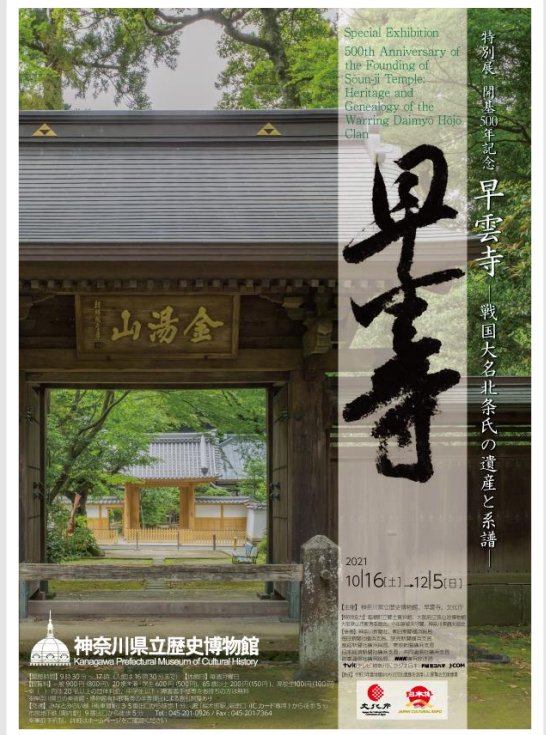
歴史系

考古には淡い色を、中世には濃い色を採用している。また展示物に関する土地をイメージさせる色を採用するなどの工夫も見られる。

Point.

考古・中世には淡い色で優しい印象
戦国・幕末期は力強く、はっきりした色彩

早雲寺のポスター。重厚な印象と自然の景観が重ね合わさる。収集されたポスター全体だけを見ると、近世や近代をテーマにしたものが多い。



幕末のポスター。歴史ポスターには習字フォントがマストか。歴史系のポスターには、奇抜なデザインのものも多く、ポスターを見ただけで展示内容がわかるようになっている。



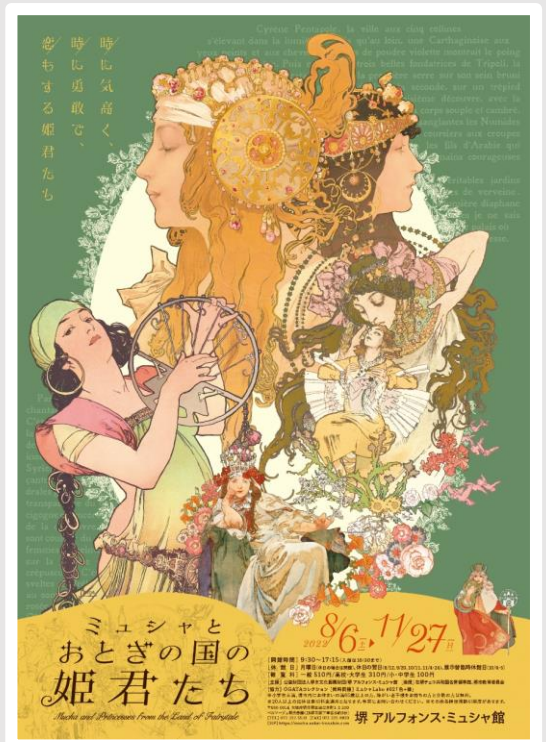
美術系

カラフルを基調とし、見る者に力強い印象を与える。サイズやフォントには他のポスターと比べてデザイン性のあるものを採用。

Point.

多彩な色使い
独特なフォント

ミュシャのポスター。さまざまな作品から一部を切り抜いて構成されている。学芸員のデザイン性やセンスが感じられるものとなっている。



珪藻のポスター。実物を大きな写真で取り上げ、ひと目見て展示内容が理解できる。ポスター掲載の実物資料はほとんど綺麗な状態で、見るものの興味を引くものばかりである。



さいごに

2022年度に、滋賀県立琵琶湖博物館に届いた全国の博物館関係施設の行事案内ポスターは1050点を数え、神戸学院大学博物館学芸員課程ではこれらを研究・実習素材として受け入れました。

私たちは、博物館実習の一環としてこれらを分類・考察することによって、現代の博物館世界の潮流を探り、将来の博物館像を描こうとしました。

ちなみに今回の総数は、10年前の2012年度に琵琶湖博物館へ集まった900枚前後という統計データを超えるものであり、多くは博物館・美術館の特別展示・企画展示の案内でしたが、コロナ禍明けを見こした講座・講演会などの催し物・観光案内も増えてきているのが特徴です。

テーマ内訳は、歴史や民俗・考古が多く、美術・文学・写真と続きますが、自然・科学・水族・動物・植物などは館数に応じてあまり多くありませんでした。この傾向は、文部科学省による日本の博物館の館種別館数データとも大まかには符合するものです。

このような分析にはじまる私たちのポスターを通じた考察の成果を、代表的なポスターとともに展示としてその一部を紹介することになりました。

開催にあたってお力添えをいただいた滋賀県立琵琶湖博物館および本学有瀬図書館の関係者の皆さんに感謝の意を表します。

2023年11月11日

神戸学院大学博物館学芸員課程

森澤慧子 手倉森奏帆 前田能希 今西伊央 三崎萌花 山下瑞貴 小林 稜 平井花音
向井望夏 細木佑一郎 三好菜月 西澤咲乃 高橋 凜 藤成和輝 渡邊葉月 菊池文月

神戸学院大学図書館 展示会通信第67号
2023年11月12日発行
編集：神戸学院大学博物館学芸員課程
発行：神戸学院大学有瀬図書館
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL 078-974-4584
E-mail:pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp
URL:http://opac.kobegakuin.ac.jp